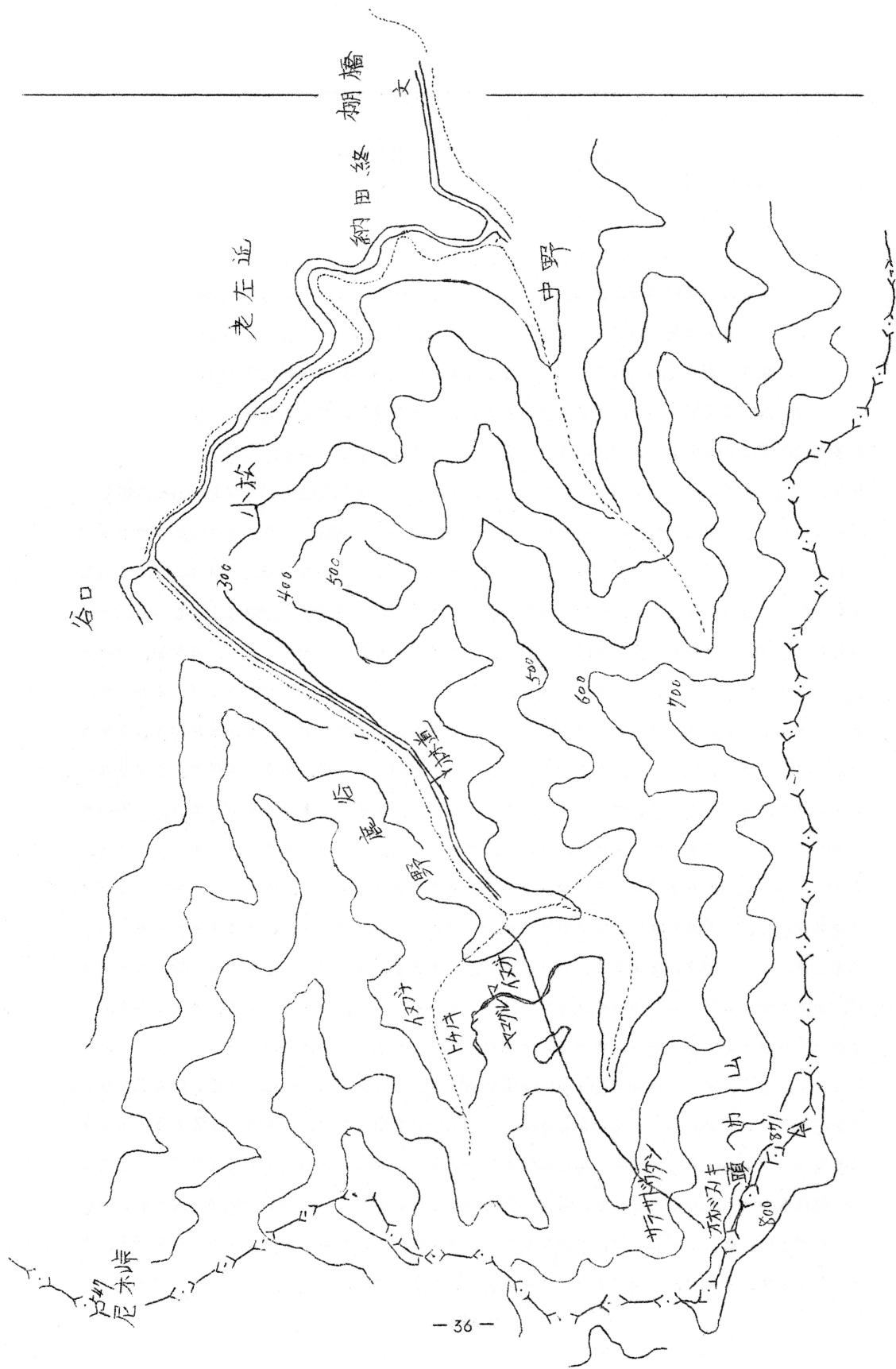


頭巾山（野鹿谷国有林）採集記

渡辺定路

頭巾山の裏側は京都府の綾部市である。ここに足をいたのは、若狭高校の上坂先生に誘われたからで、1966年9月3日に、今井長太郎、堀口、上坂の各先生と共に名田庄村役場のマイクロバスに乗り、野鹿谷国有林の林道終点まで行き、営林署員の案内で尾根伝いに頭巾山（871m）に登った。このときホンシヤクナグの大木とその量の多さ、サラサドウダンの大木とその量の多さに非常に興味を覚え、翌年の1967年8月24日午前6時20分発の鉄行列車に1人で乗り、納田終の終点には10時50分頃に到着、テントは持参したけれど畳の上に寝るに越したことはないしと小学校にその晩の宿を予約。11時頃、納田終の部落の端のケヤキにビロウドシダが着生しているの見て、バスで行ったときには全然気付かなかったものが、テクることによってすぐ珍品を見つけられるので、採集は歩くに限るという考えを一層強く持つようになった。野鹿谷国有林入口から滝の所までの間にはソバナ、ムラサキニガナ、カナクギノキ、クサギ、コバンノキ、オオバアサガラ、カラスザンショウ、カラムシ、リヨウブ、ムラサキシキブ、クロモジ、タニウツギ、アワブキ、ヤブムラサキ、シラキ、キブシ、タンナサワフタギ、ヒサカキ、シラカシ、ウラジロガシ、アカシデ、ケケンポナシ、等の木木類。ミツバ、タネツケバナ、アメリカセンダンクサ、スマオトギリ、ヤブタバコ、キンミズヒキ、ダイコンソウ、イノコズチ、アカバナオトコエシ、シシウド、ヤハズソウ、ススキ、ヤマノイモ、エビガライチゴ、オオナルコユリ、ミヤマフユイチゴ、トリアシショウマ、ツリフネソウ、ナンテンハギ、ヤマアワ、ウワバミソウ、ヘクソカズラ、ミズタビラコ、ミソホオズキ、マツカゼソウ、メヒシバ、オオアレチノギク、ヨモギ、ダンドボロギク、ブタクサ、コメナモミ、イタドリ、ヌスピトハギ等の草本類。イスワラビ、カラクサイヌワラビ、タニイヌワラビ、ホシダ、ミゾシダ、オオフジシダ、ナライシダ、ヒロハイヌワラビ、オオキジノオシダ、トラノオシダ、ヒメノキシノブ、シシラン、サジラン（福井県新）63年9月3日来た時も滝の所で小休止をとって周囲の植物に注意したのであるが、カシの木にサジランが着生していることには全然気付かなかったが、64年8月24日にきた時には最初はラン科のものが着生しているかと思い恐る恐る木に登り取って見ればサジランであった。裏日本の北限産地である。滝から林道の終わりまで（工事中の終りで現在は相当奥まで達していると思われる。）の間には、ヤマアジサイ、クマイチゴ、モミジイチゴ、ツノハシバミ、ウワミズザクラ、ミズキ、ヤマブドウ、イワガラミ、ゴトウズル、アカメガシワ、タラノキ、イヌ



ツゲ、エゴノキ、ノリウツギ、トチノキ、キブシ、サワグルミ、イタヤカエデ、エゾイタヤ(福井県新)、コウヤボウキ、コツクバネウツギ、オオモミジ、モミ、ユクノキ、チドリノキ、コバノクロ、ウメモドキ、ハクウンボク、サルナシ、カキ、テツカエデ、イヌブナ、ブナ、ムラサキマユミ、ムシカリ、ケナシアオハダ、ヌルデ、カツラ、タニウツギ、ミズナラ等の木本類、アキギリ、ミカエリソウ、キクバヤマボクチ、ミヤマカタバミ、オオカニコウモリ、ヌスピトハギ、スミレサイシン、チャルメルソウ、ヤマジノホトトギス、ミゾソバ、クサアジサイ、イヌトウバナ、ミヤマトウバナ、ミズタビラコ、シラネセンキュウ、ベニバナホロギク、オオバコ、フジカシヅウ、ミヤマタゴボウ、イヌホオズキ、コミヤマミズ、クロバナヒキオコシ、ナガエアザミ、ムカゴイラクサ、モミジガサ、コチャルメルソウ、ガンクビソウ、アカシヨウマ、フユイチゴ、ヤブマオウ、ギンバイソウ、モミジハグマ、シユウブンソウ、トリアシショウマ等の草本類、オオベニシダ、ホラシノブ、フモトシダ、タチシノブ、ヤワラシダ、オオバノハチジョウシダ、コバノイシカグマ、シノブ、ハクモウイノデ、オニカナワラビ、ミヤマベニシダ、ミヤマシケンダ、オオバノイノモトソウ、ヤマイヌワラビ、タニイヌワラビ、イノデ、サカゲイノデ、リョウメンシダ、イワヒメワラビ、サジラン(岩上に着生)ヒメワラビ、シシガシラ、ワラビ、クサソテツ、トラノオシダ等が見られた。

林道の終点から頭巾山の頂上までの尾根にはまずイヌブナその林床には、クロモジ、ツシマナカマド、アワブキ、モミジハグマ、トキワイカリソウ、スミレサイシン、ヤマソテツ、シノブカグマ、ヒサカキ等が見られる。オオウラジロノキ、チャボガヤ、ツタウルシ、イワウチワ、アセビ、ウラジロノキ、ホツツジ、コハウチワカエデ、ネジキ、サイゴクミツバツツジ、タムシバカクミノスノキ、スノキ、サカキ、アズキナシ、ヤマグルマ、ヤブコウジ、ヤマツツジ、ツクバネソウ、ヒノキ、コシアブラ、マタタビ、ヤマウルシ、ハウチワカエデ、トネリコ、ナツハゼ、マルバマンサク、オオイワカガミ、ホンシヤクナゲ(大きい木では胸周り40cm位)サラサドウダン(大きい木では胸周り30cm位)ホソバコケシノブ、コウヤコケンノブ、ウスユキハナヒリノキ、オオウラジロハナヒリノキ、ヒメコマツ、クロソヨゴ、アセビ、コミネカエデ、ツクバネソウ、ミヤマシグレ、シオガマギク、ツクバネウツギ、ヒロハコツクバネウツギ(福井県新)ケアクシバ、ミヤマママコナ、シロバナミヤマママコナ(福井県新)ウスノキ、ツルシキミ、アツミカンアオイ、ヤマボウシ、キンキマメザクラ、ミヤマガマズミ等が見られた。

ここはイヌブナ、ブナの原生林、ホンシヤクナゲ、の群落等の生態学的に貴重な所であるので是非伐採しないで残しておいてほしいと思う。シロバナミヤマママコナはミヤマママコナの白花品 *Melampyrum laxum* Mig. var. *nikkoense* Beauv. form.

albiflorum Hava

分布上興味のあるもの

Acer mono Maxim. var *glabrum*, Hara エゾイタヤ、翅果の長さが25mm位
葉柄は半分以上微毛がある。

分布 樺太、北海道、本州(奥羽、北陸……能登)隠岐

佐渡、朝鮮、満州、アムール

Abelia serrata Sieb, et Zucc. var. *gymnocarpa* Nakai

ヒロハコツクバネウツギ、頭巾山が北限産地である。コツクバネウツギとの相違点は子房その他に毛のない型

Deinanthe bifida Maxim. ギンバイソウ

裏日本では若狭美浜町耳川上流が東限産地である。現在までの所野鹿谷、1ヶ谷、耳川上流の三ヶ所である。

Fagus japonica Maxim イヌブナ

裏日本では大野郡西谷村笠々川ダムが東限産地であるが、本県での産地は青葉山、1ヶ谷多田岳である。

Rhynchospermum verticillatum Reinw. シュウブンソウ

加賀以西で本県での産地は遠敷郡知三村と永平寺、野鹿谷である。

Ainsliaea acerifolia Sch. Bip.

モミジハグマ

本州(近畿以西)四国、九州に分布、若狭のどのあたりから分布しているかを調査したい。オクモミジハグマはモミジハグマに比して葉の分裂が浅い。

